

韓国 果実・野菜の価格上昇で摂取量が減少

[AJU PRESS 2024年8月22日](#)

ソウル、8月22日(AJU PRESS) - 果実と野菜の価格上昇が韓国人の食生活に打撃を与えていることが、調査で明らかになった。2012年から2021年の間に約1万3千人を調べた長期分析に基づくレポートによると、ソウル市民の1日当たりの平均果実消費量は10年間で182.4グラムから121.8グラムに33.2%減少した。このレポートは、市立ソウル研究院が木曜日に発表した。

野菜の消費量も同じ期間に278.1グラムから244.1グラムに減少した。果実と野菜を1日当たり500グラム未満しか食べない人の割合は、61.4%から71.8%に増加した。

記録的な熱波や洪水などの気候関連の混乱による供給不足が引き起こした果実 - 特にリンゴとナシ - の価格上昇が摂取量の下落の原因とされた。

世界的な投資銀行である野村証券によると、韓国の果実価格は今年の第1四半期に36.9%も急騰し、主要国の中で最も高い上昇率を示した。野菜の価格も10.7%と大幅に上昇した。ちなみにイタリアでは9.3%、英国では7.3%であった。

他方、多くの人が肉に目を向け、1日当たりの平均消費量は110グラムから149.1グラムに増加した。また、忙しいソウル市民の約31.6%が朝食を抜いていることがわかり、10年前の21.1%から増加した。年代別では、20代の過半数が朝食をとらず、次いで30代及び40代(39.3%)、10代(38.3%)となっている。これらの食生活の変化を反映して、慢性疾患を持つ人々の割合は、高血圧で23.6%から26.1%に、糖尿病で7.9%から11.8%にそれぞれ増加した。

ソウル研究院は、「果実や野菜の消費を奨励しながら、健康的な食生活を促進する政策を考え出す必要がある」としている。

執筆者: イム・ユンソ

米国 RNAベースのカンキツグリーニング病対策

[FreshPlaza 2024年8月22日](#)

「黄龍病」としても知られるカンキツグリーニング病は、既知の治療法がなく、感染した果樹は数年以内に枯死するため、柑橘類の栽培にとって恐るべき課題である。ミカンキジラミによって蔓延するこの病害に感染した果実は、色が悪く、形が非対称で、苦味があるため、果汁用を除いて販売に適さない。現在、ジョージア州、フロリダ州、プエルトリコ、米領バージン諸島で影響を及ぼしているほか、アラバマ州、カリフォルニア州、ルイジアナ州、サウスカロライナ州、テキサス州の一部で感染が見られる。この病気は世界的に柑橘類の生産量を著しく減少させており、フロリダ州では過去の最盛期から2023年までに80%減少した。

これに対し、メリーランド州のアグリテック企業であるシルベックバイオロジクス社は、カンキツグリーニング病に対抗するためのRNAベースの解決法を開発している。本製品は、ハウレンソウ由来の天然抗菌ペプチドをウイルスベクターを用いて送り込み、果樹や果実の遺伝子構成を変えずに収量損失を抑える効果が期待されることがほ場試験で示されており、米国環境保護庁(EPA)の農薬規制改善法に基づく登録手続きで科学的審査段階まで進んでいる。この取組みは、サザンガーデنزシトラス社、フロリダ大学、テキサスA&M農業生命研究所との共同事業であり、カンキツグリーニング病との戦いにおける重要な一歩である。

柑橘類研究開発財団からの支援と商業化への期待は、カンキツグリーニング病に取り組むという業界の決意を浮き彫りにしている。フロリダ州での使用が米国農務省により承認され、EPAの審査プロセスが進行中であることから、この革新的な技術が柑橘類の生産に対するこの病気の影響を緩和する可能性について期待が高まっている。

出典: [agdaily.com](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)